

2024年10月11日

ステークホルダーの期待する企業価値をつなげる仕組みを導入

— IR優良企業賞2024 第1次審査の集計結果より —

一般社団法人日本IR協議会（会長：手代木 功 塩野義製薬株式会社代表取締役会長兼社長 CEO）は現在、IR優良企業賞2024の審査を進めています。今年は、日本IR協議会の会員企業のうち355社がIR優良企業賞2024に応募しました。

本リリースは、応募企業355社の「調査票」に基づく第1次審査の集計結果を参考までにご報告するものです。IR優良企業賞は、IRの趣旨を深く理解し、積極的に取り組んでいる企業を表彰するもので、3段階の審査を経て決定します。最終審査の結果は、11月中旬に発表する予定です。

【調査結果の概要】

（1）IRのミッションは「企業・事業内容の理解促進」、「株主・投資家との信頼関係の構築」
応募調査票のQ1に「会社としてIRのミッションや目標を設定し、明文化していますか」という問いを設けている。「はい」の回答は応募企業355社中348社で、その割合は98%に達した。具体的な目標として15ある選択肢（複数選択）のうち最も高い割合を占めたのは「企業・事業内容の理解促進」で96.3%（335社）となった。「株主・投資家との信頼関係の構築」がほぼ同じ水準で95.7%（333社）、次いで「適正な株価の形成」の91.7%（319社）となった。

（2）「株主・投資家とステークホルダーの期待する企業価値をつなげる仕組みを導入」が86.8%に
「経営トップは株主・投資家とそれ以外のステークホルダーの期待する企業価値をつなげる仕組みを導入しているか」という設問において、3年前は71%だった実施率が今回86.8%まで上昇した。具体的には、「役員報酬制度の業績連動比率、株式報酬比率を上昇」、「役員報酬にCO₂排出量の削減など、ESG項目を含む各種指標の達成度を反映」、「役員報酬の算出に従業員のエンゲージメント評価を導入」といったものが多かった。

（3）建設的で実効的な対話機会が広がる、資本コストの説明も
「対話を深めるために強化した取り組み」について、「合理的な範囲内で取締役会議長や社外取締役、社外監査役が対話に臨む体制を構築」の割合は6割を超えた。「株主・投資家との建設的、実効的な対話となる機会を拡充」し、対話の機会を積極的に持とうとする企業の割合はほぼ9割となった。中長期的な企業価値の向上を目指す対話の取り組みについては、「自社の資本コストを算出し、それを上回る収益率の実現に向けての方策を具体的に説明する」の割合が76.6%（前回59.7%）となり、この一年で大きく上昇した。

（4）説明会資料の英文化は9割超え、社内向けIR説明会を実施する企業が増加
「情報開示に対する姿勢」について、「情報へのアクセス機会の公平性を意識して決算短信や説明会資料などを英文化しているか」では9割を超えた。「国内外の投資関係者に、同質の情報を同日に開示しているか」の回答割合は73.8%と、前回の65.4%から8.4ポイント上昇した。また円滑な業務遂行のために、社内向けIR説明会などを開催する割合は年々増加している。

（5）IR活動において強調したい点、昨年度と比べて力を入れた点
IR活動において注力した点については、「スモールミーティング、面談強化（件数増加、内容補強）」に取り組んだ企業が多かった。また「IRデイ、施設見学会、事業説明会、テーマ別説明会」などの開催によって事業の理解促進につなげようとする活動も広がった。

本件に関するお問い合わせ
一般社団法人 日本IR協議会
電話：03-5259-2676 FAX：03-5259-2677

*日本IR協議会とは：1993年設立。IRの普及を目的とする非営利団体。2024年10月1日現在の会員数は713社で、研修活動、情報発信活動などを行っている。2010年4月1日より一般社団法人へ移行。

URL：<https://www.jira.or.jp/>